

様式1-①

大学等名	鹿児島純心大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

人間教育学部

③ 修了要件

教育・心理学科では「数理・データサイエンス・AI概論」(選択2単位)を、修得すること。

必要最低科目数・単位数

1

科目

2

単位

履修必須の有無

令和9年度までに履修必須とする計画

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AI概論	2	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「数理・データサイエンス・AI概論」(2回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「数理・データサイエンス・AI概論」(2回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「数理・データサイエンス・AI概論」(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「数理・データサイエンス・AI概論」(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「数理・データサイエンス・AI概論」(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「数理・データサイエンス・AI概論」(1回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「数理・データサイエンス・AI概論」(8回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)(8回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「数理・データサイエンス・AI概論」(3・4回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「数理・データサイエンス・AI概論」(3回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「数理・データサイエンス・AI概論」(3・4回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)(3回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「数理・データサイエンス・AI概論」(3回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「数理・データサイエンス・AI概論」(3・4回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「数理・データサイエンス・AI概論」(4回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「数理・データサイエンス・AI概論」(7・8回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「数理・データサイエンス・AI概論」(9・10回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「数理・データサイエンス・AI概論」(5・6回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「数理・データサイエンス・AI概論」(6回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「数理・データサイエンス・AI概論」(7・8回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「数理・データサイエンス・AI概論」(7・8回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「数理・データサイエンス・AI概論」(14回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「数理・データサイエンス・AI概論」(13回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「数理・データサイエンス・AI概論」(14回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「数理・データサイエンス・AI概論」(14回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「数理・データサイエンス・AI概論」(14回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「数理・データサイエンス・AI概論」(15回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「数理・データサイエンス・AI概論」(15回目) ・サイバーセキュリティ「数理・データサイエンス・AI概論」(15回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「数理・データサイエンス・AI概論」(9回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「数理・データサイエンス・AI概論」(9回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「数理・データサイエンス・AI概論」(9回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「数理・データサイエンス・AI概論」(9回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「数理・データサイエンス・AI概論」(10回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「数理・データサイエンス・AI概論」(10回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「数理・データサイエンス・AI概論」(10回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「数理・データサイエンス・AI概論」(11回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「数理・データサイエンス・AI概論」(11回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「数理・データサイエンス・AI概論」(11回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「数理・データサイエンス・AI概論」(12回目) ・データの集計(和、平均)「数理・データサイエンス・AI概論」(12回目) ・データの並び替え、ランキング「数理・データサイエンス・AI概論」(12回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「数理・データサイエンス・AI概論」(12回目) ・表形式のデータ(csv)「数理・データサイエンス・AI概論」(12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. データサイエンス・AIがもたらす社会の変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶ目的や意義を理解すること。 2. 数理・データサイエンス・AI活用領域の広がり理解し、データおよびAIの活用事例や最新動向について理解すること。 3. データを適切に読み解く力、適切に説明する力を身に付けること。 4. データおよびAIを活用する際の倫理と法を理解すること。 5. データを守るために留意すべき事項を理解すること。
--

様式1-②

大学等名	鹿児島純心大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

看護栄養学部

③ 修了要件

看護学科では「情報処理」(選択1単位)を、履修すること。
健康栄養学科では「基礎情報処理」(選択1単位)と「情報処理Ⅰ」(必修1単位)を修得すること。

必要最低科目数・単位数

1

科目

1

単位

履修必須の有無

令和9年度までに履修必須とする計画

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理	1	○	○	○					
基礎情報処理	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理	1	○	○	○					
基礎情報処理	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理	1	○	○	○					
基礎情報処理	1	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理	1	○	○	○					
基礎情報処理	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理	1	○	○	○	○						
情報処理 I	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報処理 I	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「情報処理」(2回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報処理」(2回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理」(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報処理」(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「情報処理」(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報処理」(1回目)
	1-6	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「基礎情報処理」(8回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「基礎情報処理」(8回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「基礎情報処理」(8回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報処理」(3・4回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報処理」(3回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「情報処理」(3・4回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)(3回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「情報処理」(3回目)
	1-3	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「基礎情報処理」(10回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「基礎情報処理」(10回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「基礎情報処理」(10回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「基礎情報処理」(10回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「基礎情報処理」(10回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「情報処理」(7・8回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「情報処理」(9・10回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「情報処理」(5・6回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報処理」(6回目)
	1-5	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「基礎情報処理」(12回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「基礎情報処理」(12回目)
		・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報処理」(7・8回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報処理」(7・8回目)
		・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「基礎情報処理」(15回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「基礎情報処理」(15回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「情報処理」(14回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報処理」(13回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報処理」(14回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報処理」(14回目)
	3-2	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「基礎情報処理」(13回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「基礎情報処理」(13回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「基礎情報処理」(13回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「基礎情報処理」(13回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類の(量的変数、質的変数)「情報処理」(9回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理」(9回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「情報処理」(9回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報処理」(9回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「情報処理」(10回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「情報処理」(10回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「情報処理」(10回目)
	2-2	・データの種類の(量的変数、質的変数)「情報処理」(13回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理」(13回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「情報処理」(13回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報処理 I」(13回目)
	2-3	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「情報処理」(11回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理」(11回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報処理」(11回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「情報処理 I」(13回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理 I」(13回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報処理 I」(13回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「情報処理」(12回目) ・データの集計(和、平均)「情報処理」(12回目) ・データの並び替え、ランキング「情報処理」(12回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「情報処理」(12回目) ・表形式のデータ(csv)「情報処理」(12回目) ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「情報処理 I」(15回目) ・データの集計(和、平均)「情報処理 I」(15回目) ・データの並び替え、ランキング「情報処理 I」(15回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「情報処理 I」(15回目) ・表形式のデータ(csv)「情報処理 I」(15回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. データサイエンス・AIがもたらす社会の変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶ目的や意義を理解すること。
2. 数理・データサイエンス・AI活用領域の広がりを理解し、データおよびAIの活用事例や最新動向について理解すること。
3. データを適切に読み解く力、適切に説明する力を身に付けること。
4. データおよびAIを利活用する際の倫理と法を理解すること。
5. データを守るために留意すべき事項を理解すること。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和5年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 35人 女性 549人 (合計 584人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
人間教育学部	192	85	340	34	33	4	4									38	11%
看護栄養学部	392	85	256	48	40	57	57									105	41%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	584	170	596	82	73	61	61	0	0	0	0	0	0	0	0	143	24%

大学等名 鹿児島純心大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 66 人 (非常勤) 46 人

② プログラムの授業を教えている教員数 2 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 松元 圭太郎 (役職名) 教務委員会委員長(教授)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

全学カリキュラム・教養教育検討委員会

(責任者名) 洞田 勝博 (役職名) 副学長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

企画・FD・SD委員会内規、全学カリキュラム・教養教育検討委員会内規

⑥ 体制の目的

「企画・FD・SD委員会内規」で、授業内容と教育方法の改善及び向上に関する事項を審議すると定めており、この委員会において学生の授業アンケート等の結果から授業改善への審議を行う内容を基として、「全学カリキュラム・教養教育検討委員会内規(全学の共通カリキュラムや教養教育等のあり方に関することを審議すると規定)」により、大学のカリキュラムにおける本プログラムの位置づけを確定させていく体制をとっていく。

⑦ 具体的な構成員

全学カリキュラム・教養教育検討委員会
委員長 山口明美
副委員長 洞田勝博
委員 人間教育学部長・教授 釘田雅司
看護栄養学部長・教授 中野隆之
健康栄養学科長・教授 中野隆之(再掲)
看護学科長・教授 七川正一
教務委員会委員長・教授 松元圭太郎
人間教育学部・准教授 栗原真孝
学生支援課長 橋口和代

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	24%	令和7年度予定	30%	令和8年度予定	50%
令和9年度予定	60%	令和10年度予定	80%	収容定員(名)	596
具体的な計画					
履修者数・履修率の向上に向けて、次の2点による点検・評価を実施し改善を図っていく。 ①シラバスの第三者チェックの実施 ②授業アンケート結果に基づく授業改善 点検・評価により、学生から受講したいと思ってもらえるような魅力ある授業であるかの検証を行い、次年度のシラバスに反映させていくことを確実なものにする。 年度単位の計画は次のとおりである。 令和6・7年度 新入生に対する履修指導の改善・充実 令和8年度 各学科・専攻の専門教育科目との連携によるプログラムの充実 令和9年度 リテラシーレベルプラス認定を目指したシラバスの改善 また、この他に各学科ごとに実施されるオリエンテーション等で、全学生に対しアナウンスしていくことも、引き続き行っていく。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

各学部・学科の必修科目との時間割重複による履修への影響を受けないよう全学共通(全学科履修)で開設する時間割科目とせずに、学部学科別に各々の科目を開講することにより全学科で履修希望する者が受講できる時間割(体制)をとっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学時の各学部の新入生オリエンテーション時に、オンライン授業講習のプログラムを設けて情報関連の指導を行い、その際にプログラムの概要の説明や詳しい履修登録指導を学生支援課が中心となって行っている。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

教育・心理学科および看護学科では時間割を検討する上で、可能な限り他の必修・選択科目と重複しないよう考慮している。また、健康栄養学科においては、教育プログラムの一部を必修科目である「情報処理Ⅰ」の内容として取り入れている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

科目担当者は、オフィスアワーを設けており、対面での質問受付やサポート体制を整えている。
また、LMSであるmoodleを活用しており、教材の提示、授業に関する連絡事項の周知、参考となるコンテンツの閲覧、動画コンテンツの視聴、課題の提出、質問受付などができるようにしている。
質問があった場合には、moodleを通して授業時間外での学習支援も行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

企画・FD・SD委員会

(責任者名) 洞田 勝博

(役職名) 副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																																						
学内からの視点																																								
プログラムの履修・修得状況	教務システム（CampusPlan）により、学生の履修・単位修得状況を確認することができる。また、履修中の出席状況も同じシステムで確認するとともに、科目担当者は学修支援システム（moodle）を活用することで履修状況の詳細を把握することができるようになっている。 本年度開講された科目の学科別履修者数および修得状況は次の通りである。 <table><thead><tr><th>学部名</th><th>学科名</th><th>科目名</th><th>履修者数</th><th>修得状況</th></tr></thead><tbody><tr><td>人間教育学部</td><td>教育・心理学科</td><td>「数理・データサイエンス・AI概論」</td><td>34名</td><td>33名単位修得(卒業生除く)</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>看護学科</td><td>「情報処理」</td><td>14名</td><td>13名単位修得</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>健康栄養学科</td><td>「基礎情報処理」</td><td>34名</td><td>27名単位修得</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>健康栄養学科</td><td>「情報処理Ⅰ」</td><td>38名</td><td>全員単位修得</td></tr></tbody></table>					学部名	学科名	科目名	履修者数	修得状況	人間教育学部	教育・心理学科	「数理・データサイエンス・AI概論」	34名	33名単位修得(卒業生除く)	看護栄養学部	看護学科	「情報処理」	14名	13名単位修得	看護栄養学部	健康栄養学科	「基礎情報処理」	34名	27名単位修得	看護栄養学部	健康栄養学科	「情報処理Ⅰ」	38名	全員単位修得										
学部名	学科名	科目名	履修者数	修得状況																																				
人間教育学部	教育・心理学科	「数理・データサイエンス・AI概論」	34名	33名単位修得(卒業生除く)																																				
看護栄養学部	看護学科	「情報処理」	14名	13名単位修得																																				
看護栄養学部	健康栄養学科	「基礎情報処理」	34名	27名単位修得																																				
看護栄養学部	健康栄養学科	「情報処理Ⅰ」	38名	全員単位修得																																				
学修成果	プログラムの授業内容について履修者の理解度を把握するために、担当教員が、学修支援システムmoodleにより各履修者のミニテスト実施や課題への取り組み状況を把握できる体制をとっており、毎回の授業での理解度状況を確認できるようになっている。 今年度の学修成果は次の通りである。 <table><thead><tr><th>学部名</th><th>学科名</th><th>科目名</th><th>90～100点</th><th>80～89点</th><th>70～79点</th><th>60～69点</th></tr></thead><tbody><tr><td>人間教育学部</td><td>教育・心理学科</td><td>「数理・データサイエンス・AI概論」</td><td>18</td><td>44</td><td>18</td><td>15</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>看護学科</td><td>「情報処理」</td><td>14</td><td>50</td><td>21</td><td>7</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>健康栄養学科</td><td>「基礎情報処理」</td><td>9</td><td>27</td><td>27</td><td>18</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>健康栄養学科</td><td>「情報処理Ⅰ」</td><td>29</td><td>40</td><td>11</td><td>21</td></tr></tbody></table> 以上の結果より、多くの学生が科目が定めた到達目標に到達しており、一定の学修成果を得たものであると考える。 また、この結果は全学カリキュラム検討委員会と共有・分析しており、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの構築に役立てる体制が構築されている。					学部名	学科名	科目名	90～100点	80～89点	70～79点	60～69点	人間教育学部	教育・心理学科	「数理・データサイエンス・AI概論」	18	44	18	15	看護栄養学部	看護学科	「情報処理」	14	50	21	7	看護栄養学部	健康栄養学科	「基礎情報処理」	9	27	27	18	看護栄養学部	健康栄養学科	「情報処理Ⅰ」	29	40	11	21
学部名	学科名	科目名	90～100点	80～89点	70～79点	60～69点																																		
人間教育学部	教育・心理学科	「数理・データサイエンス・AI概論」	18	44	18	15																																		
看護栄養学部	看護学科	「情報処理」	14	50	21	7																																		
看護栄養学部	健康栄養学科	「基礎情報処理」	9	27	27	18																																		
看護栄養学部	健康栄養学科	「情報処理Ⅰ」	29	40	11	21																																		
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	最終授業時に実施している「授業アンケート」に、履修者自身の到達目標の達成度を振り返る項目を設定させ、学生の意識づけさせるとともに、学修成果を可視化させている。 上記の項目を含めた授業アンケート結果は、企画・FD・SD委員会で情報の共有・分析をし、授業改善につなげる体制をとっており、学生の理解度を高めることができるようになる。																																							
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	これまでの授業アンケート結果の公表は全体的なものであり、後輩への推奨度を明確にしたものでなかった。このことから、学生の履修につながる結果公表の方法について、企画・FD・SD委員会で検討し、改善を図るようようにする。																																							
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムの科目は選択科目となっているため、履修率が高くない状況を鑑み、新年度の4月オリエンテーション時においてプログラムの内容と履修によるメリット（卒業後の活用等）の周知を積極的に行う計画にしており、履修者数の増加につなげていく。																																							

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																				
学外からの視点																					
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは、令和5年度からの開講だったため、修了者(卒業生)の実績が出ていない。現在、進路支援課において、卒業生への卒業後の進路状況等のアンケートを実施しているため、本プログラムに関する調査項目を新たに設けることによって、今後のプログラム改善に活用できるようにをしていく。																				
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	進路支援課において、卒業生の就職先訪問の実施と定期的に企業向けのアンケート調査を実施しており、それぞれで外部からの意見聴取を行える体制を整えている。特に、企業向けアンケート調査では、これまでも必要とされる「情報通信技術 (ICT)活用力(PCやスマートフォン等を持ちて多様な情報を収集・分析して効果的に活用できる力)」が備わっているかの項目を設けており、授業内容の改善や学生指導へ活用されてきた。今後は、本プログラムの改善につながる意見聴取を進めていく。																				
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業では実社会での活用事例を写真や動画で紹介することで、受講生に具体的なイメージができるよう教員が工夫している。実際のデータの集計・分析を行う等、単なる学問分野としてではなく広く社会に求められる実践的な力となることを理解できる授業内容としており、学生による授業評価アンケートの質問項目に、その内容についても評価できるようにしている。 (質問)教員が、興味・関心を引き出すような工夫を行っていましたか。 <table><tr><th>学部名</th><th>学科名</th><th>科目名</th><th>「行っていた」「だいたい行っていた」の割合(%)</th></tr><tr><td>人間教育学部</td><td>教育・心理学科</td><td>「数理・データサイエンス・AI概論」</td><td>100%</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>看護学科</td><td>「情報処理」</td><td>100%</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>健康栄養学科</td><td>「基礎情報処理」</td><td>97%</td></tr><tr><td>看護栄養学部</td><td>健康栄養学科</td><td>「情報処理Ⅰ」</td><td>100%</td></tr></table>	学部名	学科名	科目名	「行っていた」「だいたい行っていた」の割合(%)	人間教育学部	教育・心理学科	「数理・データサイエンス・AI概論」	100%	看護栄養学部	看護学科	「情報処理」	100%	看護栄養学部	健康栄養学科	「基礎情報処理」	97%	看護栄養学部	健康栄養学科	「情報処理Ⅰ」	100%
学部名	学科名	科目名	「行っていた」「だいたい行っていた」の割合(%)																		
人間教育学部	教育・心理学科	「数理・データサイエンス・AI概論」	100%																		
看護栄養学部	看護学科	「情報処理」	100%																		
看護栄養学部	健康栄養学科	「基礎情報処理」	97%																		
看護栄養学部	健康栄養学科	「情報処理Ⅰ」	100%																		
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本プログラムの内容・水準を維持・向上するために、「全学カリキュラム・教養教育検討委員会」が中心となり、授業評価を基にした授業改善策の作成に取り組み、魅力ある数理・データサイエンス・AI教育プログラムを提供できるよう、企画・立案を引き続き行う。 また、鹿児島県内の大学で構成される「鹿児島数理データサイエンスAI教育リテラシーレベル協働コンソーシアム (KMDASH-L協働WG)」に参画し、分析評価のプレゼンテーションまでを行う内容の科目開発に携わっている。																				

鹿児島純心大学 シラバス検索 URL

https://k-jundai-

web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索)

開講年度	2024	講義区分	選択なし
講義コード		担当教員	
講義名称	情報処理	単位	
学則科目名称		単位区分	選択なし
講義開講時期	選択なし		
曜日	選択なし	ナンバリングコード	
時限	選択なし		
授業方法	選択なし		

該当件数 6件(1-6 件を表示)

<前ページ 1 次ページ>								
	講義コード ナンバリングコード	講義名称	学則科目名称	講義開講時期	講義区分	代表教員	単位	単位区分
選択	1193800011 211008104	基礎情報処理	基礎情報処理	前期	演習	洞田 勝博	1	必
選択	1ZZ1002014 000008101	基礎情報処理	基礎情報処理	前期	演習	寺田 将春	1	選
選択	1193700011 211008101	情報処理	情報処理	後期	演習	洞田 勝博	1	選
選択	1ZZ0640011 221008102	情報処理 I	情報処理 I	後期	演習	寺田 将春	1	必
選択	1ZZ0641013 222008103	情報処理 II	情報処理 II	前期	演習	寺田 将春	1	必
選択	1ZZ1438011 22258SF05	栄養情報処理	栄養情報処理	前期	演習	川野 美智代	1	必
<前ページ 1 次ページ>								

「開講年度」はプルダウンで選択し、閲覧したい科目の「講義名称」を入力してください。

『以上の条件で検索』をクリックすると、該当科目が一覧で表示されるので、『選択』をクリックしてください。

その他「担当教員」等を入力すると、複数ある科目の中から絞り込むことができます。



シラバス参照

講義名	数理・データサイエンス・AI概論		
代表ナンバリングコード	13100B107		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部	13100B107

担当教員
氏名
◎ 洞田 勝博

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	コンピュータとインターネットの利用は現代社会に深く浸透し、広く利用されている。生成AIの登場により、学習の面における情報を収集、レポート作成法にも変化が見られる。デジタル社会の発展に対応するため、数理・データサイエンス・AIを学習し、活用する能力を育成することを目的に以下を到達目標とする。 1. データサイエンス・AIがもたらす社会の変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶ目的や意義を理解すること。 2. 数理・データサイエンス・AI活用領域の広がりを理解し、データおよびAIの活用事例や最新動向について理解すること。 3. データを適切に読み解く力、適切に説明する力を身に付けること。 4. データおよびAIを利活用する際の倫理と法を理解すること。 5. データを守るために留意すべき事項を理解すること。
授業の展開計画	情報通信技術の急速な進歩により、PCやスマートフォンは生活に不可欠な物となり、現在ではそれらから日々膨大なデータが発生し蓄積されている。 それに伴い、AI（人工知能）技術やデータ分析を用いた新しいサービスやシステムもかなり普及しており、我々の生活は今大きく変化している。 この授業では多くのデータから有益な知見を引き出すための手法である数理・データサイエンス・AIの基礎知識の習得を目標とし、以下のように進めていく。

授業計画表	
授業計画	
回	内容
第1回	数理・データサイエンス・AIの重要性 ・データサイエンスをなぜ学ぶのか ・AIが注目されるようになった背景
第2回	社会で起きている変化 ・複数技術を組み合わせたAIサービス ・AIがもたらす未来社会と問題点
第3回	社会で活用されているデータ ・データの取得・作成・オープン化 ・データのメタ化
第4回	データ・AIの活用領域（グループワーク） ・企業におけるデータサイエンスの利用 ・機械やAIによる自動化

第5回	データ・AI活用のための技術 その1 ・データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る ・非構造データデータ処理 音声・テキスト処理
第6回	データ・AI活用のための技術 その2 ・非構造データデータ処理 画像・動画画像処理 ・AIによるパターン認識
第7回	データ・AI活用の現場（グループワーク） ・データサイエンスのサイクル ・AI活用の事例
第8回	データ・AI活用の最新動向 ・ニューラルネットと深層学習
第9回	データを読む1 ・量的データと質的データ ・データの分布とばらつき
第10回	データを読む2 ・相関と因果 ・クロス集計
第11回	データを説明する ・データの図表表現 ・質的および量的データの可視化
第12回	データを扱う ・データの解析ツール ・データの集計
第13回	データ・AIを扱う上での留意事項（グループディスカッション） ・個人情報保護 ・EU一般データ保護規則（GDPR） ・オプトアウト
第14回	データ・AIを扱う上での留意事項（グループディスカッション） ・データ倫理 ・データ倫理AI社会原則 ・サービスの責任論
第15回	データを守る上での留意事項（グループディスカッション） ・情報セキュリティ ・情報セキュリティ情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例

履修上の注意事項	授業開始時には、PCへのログインを完了しておくこと
準備学習（予習・復習等）	予習・復習には本学Moodleを使用する。 Moodleに次回までに準備すべき事項をまとめておくので、必ず授業前に確認すること。 また毎回ごとに「今日の内容を振り返って」の項目があるので、授業終了後に回答すること。 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	レポート 50%（到達目標1～5の内容） 課題 50%（第4, 7, 13, 14, 15回のグループワーク・ディスカッション）
テキスト	適宜プリントを配布。（moodleにも掲載）
参考文献	北川源四郎、竹村彰通編 他(2021) 『教養としてのデータサイエンス』 講談社 上藤一郎 (2021) 『絵と図でわかるデータサイエンス』 技術評論社 授業で扱う事項についてはWeb検索や図書館も利用してほしい。
学修のフィードバック方法	演習課題については、moodle上にて個別フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	グループワーク グループディスカッション

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	情報処理		
代表ナンバリングコード	21100BI01		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
授業方法	対面授業		
単位	1		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21100BI01

担当教員
氏名
◎ 洞田 勝博

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	コンピュータとインターネットの利用は現代社会に深く浸透しこれまで広く利用されている。生成AIの登場により、学習の面における情報を収集、レポート作成法にも変化が見られる。デジタル社会の発展に対応するため、数理・データサイエンス・AIを学習し、活用する能力を育成することを目的に以下を到達目標とする。 1. データサイエンス・AIがもたらす社会の変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶ目的や意義を理解すること。 2. 数理・データサイエンス・AI活用領域の広がりを理解し、データおよびAIの活用事例や最新動向について理解すること。 3. データを適切に読み解く力、適切に説明する力を身に付けること。 4. データおよびAIを利活用する際の倫理と法を理解すること。 5. データを守るために留意すべき事項を理解すること。
授業の展開計画	情報通信技術の急速な進歩により、PCやスマートフォンは生活に不可欠な物となり、現在ではそれらから日々膨大なデータが発生し蓄積されている。 それに伴い、AI(人工知能)技術やデータ分析を用いた新しいサービスやシステムもかなり普及しており、我々の生活は今大きく変化している。 この授業では多くのデータから有益な知見を引き出すための手法である数理・データサイエンス・AIの基礎知識の習得を目標とし、以下のように進めていく。

授業計画表	
回	内容
第1回	数理・データサイエンス・AIの重要性 ・ データサイエンスをなぜ学ぶのか ・ AIが注目されるようになった背景
第2回	社会で起きている変化 ・ 複数技術を組み合わせたAIサービス ・ AIがもたらす未来社会と問題点
第3回	社会で活用されているデータ ・ データの取得・作成・オープン化 ・ データのメタ化
第4回	データ・AIの活用領域（グループワーク） ・ 企業におけるデータサイエンスの利用 ・ 機械やAIによる自動化

第5回	データ・AI活用のための技術 その1 ・データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る ・非構造データデータ処理 音声・テキスト処理
第6回	データ・AI活用のための技術 その2 ・非構造データデータ処理 画像・動画画像処理 ・AIによるパターン認識
第7回	データ・AI活用の現場（グループワーク） ・データサイエンスのサイクル ・AI活用の事例
第8回	データ・AI活用の最新動向 ・ニューラルネットと深層学習
第9回	データを読む1 ・量的データと質的データ ・データの分布とばらつき
第10回	データを読む2 ・相関と因果 ・クロス集計
第11回	データを説明する ・データの図表表現 ・質的および量的データの可視化
第12回	データを扱う ・データの解析ツール ・データの集計
第13回	データ・AIを扱う上での留意事項（グループディスカッション） ・個人情報保護 ・EU一般データ保護規則（GDPR） ・オプトアウト
第14回	データ・AIを扱う上での留意事項（グループディスカッション） ・データ倫理 ・データ倫理AI社会原則 ・サービスの責任論
第15回	データを守る上での留意事項（グループディスカッション） ・情報セキュリティ ・情報セキュリティ情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例

履修上の注意事項	授業開始時には確実にログインを完了しておくこと。
準備学習（予習・復習等）	予習・復習には本学Moodleを使用する。 Moodleに次回までに準備すべき事項をまとめておくので、必ず授業前に確認すること。 また毎回ごとに「今日の内容を振り返って」の項目があるので、授業終了後に回答すること。 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	レポート 50%（到達目標1～5の内容） 課題 50%（第4, 7, 13, 14, 15回のグループワーク・ディスカッション）
テキスト	適宜プリントを配布。（moodleにも掲載）
参考文献	北川源四郎、竹村彰通編 他(2021) 『教養としてのデータサイエンス』 講談社 上藤一郎 (2021) 『絵と図でわかるデータサイエンス』 技術評論社 授業で扱う事項についてはWeb検索や図書館も利用してほしい。
学修のフィードバック方法	演習課題については、moodle上にて個別フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	グループワーク グループディスカッション

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎情報処理		
代表ナンバリングコード	00000BI01		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
授業方法	対面授業		
単位	1		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
共通科目共通科目	00000BI01

担当教員
氏名
◎ 寺田 将春

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎態度・志向性 ○知識・理解
到達目標	今日情報化社会の進展により、情報機器を活用する能力はどのような分野においても必要不可欠となっている。 そこで本講義では、大学および社会でコンピュータを活用するための基本的な情報リテラシーのスキル修得を目標とすると共に、データサイエンス・AIがもたらす社会の変化を知り、AIリテラシーの修得を目的とする。 1. コンピュータのシステムを理解し、コンピュータを利用することができる。 2. Wordの操作方法について学び、文章・画像・表などを用いて資料を作成することができる。 3. 数値・データサイエンス・AI活用領域の広がりを理解し、データおよびAIの活用事例や最新動向について理解することができる。 4. データおよびAIを利活用する際の倫理と法を理解すること。 5. データを守るために留意すべき事項を理解すること。
授業の展開計画	コンピュータを利用するために必要となるスキルの修得を目指す。Microsoft Wordソフトを用いてキーボードを用いたタイピング・文章の印刷・表や図の編集について学ぶ。 また、AI(人工知能)技術やデータ分析を用いた社会の変化を学び、データサイエンス・AIの基礎知識の習得を目標とする。

授業計画表	
回	内容
第1回	大学におけるPC利用などのガイダンス（4/5実施）
第2回	文字入力的基础、ローマ字入力・かな入力、タッチタイピング
第3回	文章作成のスキル1（文章の入力・印刷）
第4回	文章作成のスキル2（編集機能の利用）
第5回	文章作成のスキル3（表の作成と編集）
第6回	文章作成のスキル4（ビジネス文書の基礎）
第7回	文章作成のスキル5（文書と図、表を統合したレポート作成）
第8回	AIリテラシーとは
第9回	社会で起きている変化
第10回	社会で活用されているデータ

第11回	データ・AIの活用領域
第12回	データ・AI利活用のための技術
第13回	データ・AI利活用における留意事項
第14回	データ・AIにまつわるセキュリティ
第15回	データ・AI利活用の最新動向と今後
履修上の注意事項	授業開始時には、PCへのログインを完了しておくこと
準備学習（予習・復習等）	予習・復習には本学Moodleを使用する。 Moodleに次回までに準備すべき事項をまとめておくので、必ず授業前に確認すること。 また各回ごとに「今日の内容を振り返って」の項目があるので、授業終了後に回答すること。 1回の授業に対し2時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定実技試験70% 文書作成ソフトの基本操作、タブ・インデントの利用、表や図形の挿入など評価。 AIリテラシーに関するCBT試験 課題 30%
テキスト	適宜プリントを配布。（moodleにも掲載）
参考文献	実教出版企画開発部 編（2022）『30時間でマスター Word2021』 実教出版 岡嶋裕史 吉田雅裕編（2021）『はじめてのAIリテラシー』 技術評論社
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：課題演習、グループワークによる相互評価

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照



講義名	情報処理 I		
代表ナンバリングコード	22100BI02		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
授業方法	対面授業		
単位	1		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22100BI02

担当教員
氏名
◎ 寺田 将春

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎態度・志向性 ○知識・理解
到達目標	多くのデータから有益な知見を引き出すための手法である数理・データサイエンス・AIの観点から、Microsoft Excelの利用を通じて、コンピュータを活用した問題解析の能力を高めることを目標とする。 1. データを適切に読み解き、説明することができる。 2. Microsoft Excelの操作方法について学び、データの処理や資料の作成をすることができる。 3. グラフの活用力について学び、統計リテラシーの基礎について理解をすることができる。
授業の展開計画	全体としてデータ処理の方法を主に展開する。具体的には基礎として画面操作・表の作成・関数の利用を行う。

授業計画表

回	内容
第1回	データ・AIの技術
第2回	データリテラシー(読み、説明、扱う)
第3回	統計と数学の基本
第4回	表計算の基礎 表の作成
第5回	データ処理の基礎 (1) 数式の利用(相対参照・絶対参照)
第6回	データ処理の基礎 (2) グラフの種類と作成
第7回	データ処理の基礎 (3) 関数の利用1 (SUMなどの数学関数)
第8回	データ処理の基礎 (4) 関数の利用2 (IF関数などの論理関数)
第9回	データ処理の基礎 (5) 関数の利用3 (VLOOKUP関数などの検索関数)
第10回	データ処理の基礎 (6) 関数の利用4 (COUNTIF関数などの条件付き関数)
第11回	データ処理の応用 (1) Excelの複合利用
第12回	データ処理の応用 (2) データベースの作成
第13回	データ活用実践(1) データ処理作業を低減するためのマクロ
第14回	データ活用実践(2) テキスト解析
第15回	データを上手に扱うには
履修上の注意事項	
特になし	
準備学習(予習・復習等)	moodle上に予習・復習資料を置くので、活用し理解を深めること。1回の授業に対し1時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定実技試験70% 表計算ソフトの基本操作、計算や適切な関数を利用したデータ処理、グラフの作成などを評価。 課題提出状況30% 適宜授業課題あり。提出はすべてmoodleへ。
テキスト	適宜プリントを配布。(moodleにも掲載)
参考文献	実教出版企画開発部 編 (2022)『30時間でマスター Excel2021』 実教出版 岡嶋裕史 吉田雅裕編 (2021)『はじめてのAIリテラシー』 技術評論社
学修のフィードバック方法	課題(試験やレポート等)については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験(レポート等)については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法: 課題演習、グループワークによる相互評価 moodleへ実践動画資料を掲載するので、必要に応じて授業時間外に確認・学習すること。

[ウインドウを閉じる](#)

人間教育学部 教育・心理学科 1年次（基礎教育科目）（専門教育科目・学部共通）2023・2024入学生

配当 年次	配当 学期	系列	領域	分類	ナンバリング	授業科目名	卒業 必修	資格関連						ディプロマポリシー			
								幼	小	特支	保	主事	公心	3	1	2	4
1 年	前 期	基礎 教育 科目	人間的 成長を 促す領 域	建 学 の 精 神	00011BG01	純心講座	○							○	○	◎	
					00019BG01	キリスト教概論 I	○							◎	○	○	
					00019BG03	聖書講読 I									◎		
				人 文 科 学	00010BG01	哲学 I								◎		○	
					00091BG01	日本近代文学								○	◎	○	
					00036BG01	人間・教養・文化									○	◎	
					00014BG01	心理学概論						○	○		◎	○	
				社 会 科 学	00032BG01	日本国憲法		○	○						◎		
					00030BG01	環境学習論								○		◎	
				自 然 科 学	00043BG01	基礎化学									◎		
					00043BG02	生物有機化学									◎		
					00046BG01	生命科学								○	◎		
				芸 術	21176BG12/22176BG15	音楽概論									◎	○	
					21172BG13/22172BG16	美術									◎	○	
				健 康	00078BG01	健康スポーツ I								○	◎	○	
					00049BG02	認知症援助論								○	◎		
				基 礎 教 養	13149BG31	新入生セミナー	○								◎	○	○
					00030BG02	時事問題演習 I								○	○	◎	
		情報 の活用 と表現 力を高 める領 域	情 報 技 術		00000BI01	基礎情報処理								○	◎		
					13100BI07	数理・データサイエンス・AI概論									◎		
			外 国 語		13183BI07	英語演習	1 科 目 選 択 必 修							○	○	◎	○
					00082BI01	中国語入門 I									◎		
					00085BI01	仏語入門 I									◎		
					00084BI01	独語入門 I									◎	○	
		専門 教育 科目	共 通 科 目	教 育 学	13137SA02	教職論	○	○	○						◎	○	
					13137SA03	教育原理	○	○	○		○	○			◎	○	
				心 理 学	13114SA12	発達心理学					○		○		◎		
				福 祉	00136SA20/22149SA01	社会福祉概論					○	○		○	◎	○	
				英 語	13183SE11	英文法									◎	○	
				そ の 他 外 国 語	13184SG27	ドイツ語 I									◎		
					13185SG29	フランス語 I									◎		
					13182SG31	中国語 I									◎		
				語 学	13181SA30	日本語教育入門									◎	○	
				文 化	13138SA47	日本文化論 I								○		◎	
					13138SA49	中国文化論 I									○	◎	
					13138SA51	ドイツ文化論 I									◎	○	
					13138SA53	フランス文化論 I									◎	○	
					13138SA55	こども文化概論	○	○	○		△			○		◎	
				海 外 研 修	13189SA58	海外研修 I									○	○	◎
					13189SA59	海外研修 II									○	○	◎

配当 年次	配当 学期	系列	領域	分類	ナンバリング	授業科目名	卒業 必修	資格関連						ディプロマポリシー			
								幼	小	特支	保	主事	公心	3	1	2	4
1 年	後期	基礎 教育 科目	人間的 成長を 促す 領域	建学の 精神	00019BG02	キリスト教概論Ⅱ								◎	○	○	
					00019BG04	聖書講読Ⅱ									◎		
				人文 科学	00010BG02	哲学Ⅱ								◎		○	
					00090BG01	比較文学								○	○	◎	
					13121BG11	日本史									◎	○	
					00038BG01	薩摩学								○	◎	○	
					00036BG02	異文化理解									○	◎	
					00014BG02	臨床心理学概論							○	○	◎	○	
				社会科学	00036BG03	家族論								○	◎	○	
					00036BG04	女性学								○	◎		
				自然科学	00041BG01	数学再発見（数と形の不思議）									◎		
				芸術	13176BG63	合唱								○	○	◎	
				健康	00078BG02	健康スポーツⅡ		○	○		○			○	◎	○	
					13149BG29	食べ物と健康									◎	○	
				基礎教養	00030BG09	総合人間科学								○	◎	○	
			情報 の活用 と表現 力を 高める 領域	情報技術	13100BI02	情報科学概論	○	○	○					○	◎		
					13100BI03	コンピュータ演習Ⅰ								○	◎		
				外国語	13183BI08	総合英語演習	○	○	○		○			○	○	◎	
					00082BI02	中国語入門Ⅱ									◎		
					00085BI02	仏語入門Ⅱ									◎		
					00084BI02	独語入門Ⅱ									◎		
	通年	専門 教育 科目	共通 科目	教育 学	13114SA04	教育・学校心理学	○	○	○		△		○	○	◎	○	
					13137SA06	ベーシック教育学									◎	○	
					13106SA08	生涯学習概論									○	◎	
				心理 学	13137SA13	知的障害者の心理・生理・病理				○				○	◎	○	
					13114SA14	社会・集団・家族心理学					○		○	○	◎	○	
				英語	13183SA24	リーディング・ライティングⅠ								○	◎	○	○
				その他 外国語	13184SG28	ドイツ語Ⅱ									◎		
					13185SG30	フランス語Ⅱ									◎		
					13182SG32	中国語Ⅱ									◎		
				日本語	13181SA31	日本語学概論									◎	○	
				文化	13138SA48	日本文化論Ⅱ								○		◎	
					13138SE16	イギリス文化論									◎	○	
					13138SA50	中国文化論Ⅱ									○	◎	
					13138SA52	ドイツ文化論Ⅱ									◎	○	
					13138SA54	フランス文化論Ⅱ									◎	○	
				海外 研修	13189SA75	海外語学研修								○	○		◎
					13130SA60	海外インターンシップⅠ								○	○	○	◎
					13130SA61	海外インターンシップⅡ								○	○	○	◎
				基礎 教育	00030BG05	インターンシップⅠ								○	○	○	◎
				人間的 成長	00030BG07	地域貢献活動Ⅰ								○	○	◎	○
				専門 教育	13137SA10	学校インターンシップⅠ		△	△					○	○	◎	○

看護栄養学部 看護学科 カリキュラムマップ (2023・2024年度入学生用)

配 当 年 次	配 当 学 期	系 列	領 域	分 類	授 業 科 目 名	ナンバリング	履 修 方 法	履修単位数		配 開 講 年 次 期	週 時 間 数	資格必修				DP(ディプロマポリシー)				備 考	
								必修	選択			看護 師	保健 師	助 産 師	養 護 教 師	1	2	3	4		
1 年	前期	基礎 教育 科 目	人 間 的 成 長 を 促 す 領 域	看護の精神	看護入門	21149BG01	S	1		1前	2	○				◎	○	○			
					キリスト教論	21119BG02	L	2		1前	2	○				◎	○	◎			
					建学の精神と看護	21111BG03	L	2		1前	2	○				◎	○	○			
					哲学Ⅰ	00010BG01	L		2	1前	2					◎	○	○			
					聖書講読Ⅰ	00019BG03	L		2	1前	2					◎					
					日本近代文学	00091BG01	L		2	1前	2					◎	○	○			
					心理学概論	00014BG01	L		2	1前	2					◎	○				
				美術	21172BG13	L		2	1前	2					◎	○					
				看護と社会	環境学習論	00030BG01	L		2	1前	2					◎	○				
			プロジェクトJ	基礎化学	00043BG01	L		2	1前	2					◎						
				生物有機化学	00043BG02	L		2	1前	2					◎						
			認知症援助論	00049BG02	L		2	1前	2					◎		○					
			時事問題演習Ⅰ	00030BG02	S		2	1前	2						○	◎					
			表現 力 を 高 め る 領 域	情報技術	基礎情報処理	21100BI04	S	1		1前	2	○				○	◎		○		
					論理的思考法	21100BI05	L	1		1前	1	○				◎		○	○		
					中国語入門Ⅰ	00082BI01	S		2	1前	2					◎					
				表現技術	仏語入門Ⅰ	00085BI01	S		2	1前	2					◎					
					独語入門Ⅰ	00084BI01	S		2	1前	2					◎					
	課題解決法演習	21100BI14			S	2		1前	2	○					◎	○	○	○			
	と看護の 領域となる	人体の科学			人体の構造と機能Ⅰ	21149SB01	S	2		1前	4	○			○	○	◎	○			
	健康スポーツⅠ	00078BG01			S	1		1前	2	○				◎	○	○					
	ヒューマンケアリング グループダイナミクス	21149SB05			S	1		1前	2	○				◎	○	◎					
	社会・制度・倫理	公衆衛生学	21149SB11	L	1		1前	1	○	○			○	◎							
	後・前	専門 教育 科 目	人 間 的 成 長 を 促 す 基 礎 教 育 科 目	看護論	看護原論	21149SB14	L	2		1前	2	○			○	○	◎	○	○		
					看護技術	基礎看護技術Ⅰ(基本技術)	21149SB16	S	2		1前	4	○			○	○	◎	○		
					人間の発達	発達援助論	21149SC01	L	1		1前	1	○				◎	○	○		
					看護対象実践	21149SC02	P	1		1前	1W	○				◎	○	○	○	学外実習	
				健康の科学	健康論	21149SC07	L	1		1前	1	○				○	○	◎	○		
				看護の精神	学校看護学	教職論	21137SD40	L		2	1前	2				○	◎	○			
				音楽概論	21176BG12	L		2	1前,1後	2					◎	○			年2回開講		
				看護の 領域となる	看護の精神	哲学Ⅱ	00010BG02	L		2	1後	2					◎	○	○		
						聖書講読Ⅱ	00019BG04	L		2	1後	2					◎				
			臨床心理学概論			00014BG02	L		2	1後	2					◎	○	○			
			看護と社会		家族論	21136BG16	L	1		1後	1	○				◎	○	○			
					日本文化	21136BG17	S	1		1後	2	○				◎		○			
					ジェンダー論	21136BG18	L		1	1後	1					◎	○	○			
プロジェクトJ			数学再発見(数と形の不思議)		00041BG01	L		2	1後	2					◎						
			食べ物と健康		21149BG26	L		2	1後	2					◎	○					
			総合人間科学		00030BG09	L		2	1後	2					◎	○	○				
情報 を 活 用 し る 領 域			情報技術	情報処理	21100BI01	S		1	1後	2					○	◎	○	○			
				看護情報学	21100BI03	L	1		1後	1	○				◎	○	○				
	プレゼンテーション技法	21100BI06		S	1		1後	2	○				◎	○	○	○					
	表現技術	英会話	21183BI07	S	1		1後	2	○					○	◎		○				
		中国語入門Ⅱ	00082BI02	S		2	1後	2						◎							
		仏語入門Ⅱ	00085BI02	S		2	1後	2						◎							
		独語入門Ⅱ	00084BI02	S		2	1後	2						◎							
		看護の 領域となる	人体の科学	人体の構造と機能Ⅱ	21149SB02	S	2		1後	4	○				○	○	◎	○			
				健康スポーツⅡ	00078BG02	S	1		1後	2	○				○	◎	○	○			
社会・制度・倫理	看護と法		21132SB09	L	1		1後	1	○					○	◎	○	○				
	社会保障制度と健康		21149SB10	L	2		1後	2	○	○				○	◎		○				
	看護と倫理		21149SB12	L	1		1後	1	○					◎	○	○					
看護論	看護の思想		21149SB15	L	2		1後	2	○					○	◎	○	○				
看護技術	基礎看護技術Ⅱ(生活援助)	21149SB17	S	2		1後	4	○					○	○	◎	○					
看護の 領域となる	健康の科学	生体防衛・感染看護論	21149SC08	L	2		1後	2	○				○	○	◎	○					
		生体栄養学	21149SC09	L	2		1後	2	○					○	○	◎	○				
		学校看護学	教育原理	21137SD39	L		2	1後	2						○	◎	○	○			
	看護の 領域となる	プロジェクトJ	地域貢献活動Ⅰ	00030BG03	S		2	1通年	2					○	◎	○	○				
			学校インターンシップⅠ	21237OE02	P	1		1通年	1W					○	◎	○	○				

配当 年次	配当 学期	系列	領域	分類	ナンバリング	授業科目名	卒業 要件 必修	資格必修				ディプロマポリシー				
								管 理 栄 養 士	栄 養 士	教 職 家 庭	教 職 栄 養	1	2	3	4	
1	前期	基礎教育科目	人間的成長を促す領域	建学の精神	00011BG01	純心講座	○					○	○	◎		
					00019BG01	キリスト教概論Ⅰ	○					○	○	◎		
					00019BG03	聖書講読Ⅰ						◎				
				人間教養	00010BG01	哲学Ⅰ							○	◎		
					00091BG01	日本近代文学						◎	○	○		
					00014BG01	心理学概論						◎	○			
					21176BG12/22176BG15	音楽概論						◎	○			
					21172BG13/22172BG16	美術						◎	○			
					00030BG02	時事問題演習Ⅰ						○	◎	○		
				自然科学	00043BG01	基礎化学						◎				
					00043BG02	生物有機化学						◎				
					00046BG01	生命科学						◎		○		
					00030BG01	環境学習論							◎	○		
			人間発達	00049BG02	認知症援助論						◎		○			
				22130BG29	課題解決法演習						◎	○	○	○		
				00078BG01	健康スポーツⅠ	○				○	○	◎	○	○		
			保健体育	00049BG01	健康科学						◎					
				00000B101	基礎情報処理					○		○		◎		
				22183B106	英語Ⅰ	○				○	○	◎	○			
				00082B101	中国語入門Ⅰ							◎				
				00085B101	仏語入門Ⅰ							◎				
		00084B101	独語入門Ⅰ							○	◎					
		専門教育科目	専門基礎分野	社会・環境と健康 人体の構造と機能・疾病の成り立ち	00136SA20, 22149SA01	社会福祉概論	○	○	○		○	◎	○	○		
					22149SB01	解剖生理学Ⅰ	○	○	○		○	◎				
					22159SC01	食品学総論	○	○	○	○	○	◎				
				食べ物と健康	22159SC08	調理学	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
					22159SC10	調理学実習Ⅰ	○	○	○	○	○	◎	○	○		
			専門分野	基礎 栄養学	22159SD01	栄養学総論	○	○	○	○	○	◎	○	○		
					22159SD02	栄養学実験	○	○	○	○	○	○	◎		○	
		教職に関する専門教育科目	教職に関する科目				21137SD40/221370E10	教職論			○	○	◎	○		
						13137SA10, 221370E34	学校インターンシップⅠ				○	○	○	◎		
	後期	基礎教育科目	人間的成長を促す領域	建学の精神	00019BG02	キリスト教概論Ⅱ						◎				
					00019BG04	聖書講読Ⅱ						◎				
					00010BG02	哲学Ⅱ							○	◎		
				人間教養	00090BG01	比較文学						○	◎	○		
					00038BG01	薩摩学						◎	○	○		
					00014BG02	臨床心理学概論						◎	○	○		
					00036BG03	家族論	○			○		◎	○	○		
					21136BG18	ジェンダー論						◎		○		
					00030BG01	総合人間科学						◎	○	○		
					00041BG01	数学再発見(数と形の不思議)						◎				
				人間発達	212310B06	世界カレントトピックス						◎	○	○		
			保健体育	00078BG02	健康スポーツⅡ	○			○	○	◎	○	○			
			情報を活用し視野を広める領域	情報活用	22100B102	情報処理Ⅰ	○	○		○	○	○		◎		
				国際教養	00036BG02	異文化理解						○	◎			
				外国語	22183B107	英語Ⅱ	○			○	○	◎	○			
					00082B102	中国語入門Ⅱ						◎				
					00085B102	仏語入門Ⅱ						◎				
					00084B102	独語入門Ⅱ						○	◎			
				専門教育科目	専門基礎分野	社会・環境と健康	22149SA03	公衆衛生学Ⅰ	○	○	○		○	◎	○	
			22149SB02				解剖生理学Ⅱ	○	○	○		○	◎			
			22149SB05				生化学Ⅰ	○	○	○		○	◎	○	○	
		22149SB07	生化学実験Ⅰ				○	○	○		○	◎	○	○		
		食べ物と健康	22159SC02			食品学各論	○	○	○	○	○	◎				
			22159SC11			調理学実習Ⅱ	○	○	○	○	○	◎	○	○		
		専門分野	栄養教育論		22159SF01	栄養教育論Ⅰ	○	○	○	○	○	◎	○			
					22159SI01	給食経営管理論Ⅰ	○	○	○		○	◎	○			
			給食経営管理論		22161SI04	食料経済	○	○	○		○	◎	○			
					22159SL02	調理科学						○	◎		○	
		通年	基礎教育科目	人間的成長を促す領域	人間発達	00030BG07	地域貢献活動Ⅰ						○	◎	○	○
					00030BG05	インターンシップⅠ					○	○	○	◎		

鹿児島純心大学 全学カリキュラム・教養教育検討委員会内規

(令和6年10月22日 制定)

(設 置)

第1条 この内規は、鹿児島純心大学大学委員会規程第1条及び第5条に基づき、全学カリキュラム・教養教育検討委員会（以下「委員会」という。）の設置及び運営に関し必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 委員会は、全学的な教学マネジメント体制のもと大学の教育課程に関する事項について、審議することを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学共通カリキュラムや教養教育等のあり方に関する事
- (2) その他、カリキュラムに関し、委員会が必要と認める事
- (3) 上項に係る計画及び検証に関する事

(組 織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 委員長（学長）
- (2) 副委員長（副学長）
- (3) 学部長、学科長
- (4) 教務委員長
- (5) 学生支援課長（教務担当）
- (6) その他、学長が指名する者

(議 事)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開き決議することはできない。

2 委員会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(意見聴取)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶 務)

第7条 委員会に関する庶務は、学生支援課において行う。

附 則

この内規は、令和6年12月1日から施行する。

鹿児島純心大学 企画・FD・SD委員会内規

(令和6年10月22日 制定)

(趣 旨)

第1条 この内規は、鹿児島純心大学大学委員会規程第1条及び第5条に基づき、企画・FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の設置及び運営に関し必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 委員会は、大学改革及び将来計画への企画立案及び大学の内部質保証体制の強化を目指し、多様化する社会に対応する教職員のキャリア形成を図る組織的な取組を推進することを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学の改革に関する事項
- (2) 大学の将来計画の企画立案等に関する事項
- (3) 授業内容及び教育方法の改善及び質向上に関する事項
- (4) FD・SD活動に関する事項
- (5) 教職員の資質開発・向上を図るための組織的研修に関する事項
- (6) 学内の諸調整等に関する事項
- (7) 学長が必要と認める事項

(組 織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 研究科長
- (5) 学科長
- (6) 専攻・コース長
- (7) 事務局長
- (8) 総務企画課長
- (9) 学長が指名する者

(議 事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見・説明を聴くことができる。

(庶 務)

第7条 委員会に関する庶務は、総務企画課において処理する。書記は、学生支援課長が行う。

附 則

この内規は令和6年12月1日から施行する。

鹿児島純心大学 企画・FD・SD委員会内規

(令和6年10月22日 制定)

(趣 旨)

第1条 この内規は、鹿児島純心大学大学委員会規程第1条及び第5条に基づき、企画・FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の設置及び運営に関し必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 委員会は、大学改革及び将来計画への企画立案及び大学の内部質保証体制の強化を目指し、多様化する社会に対応する教職員のキャリア形成を図る組織的な取組を推進することを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学の改革に関する事項
- (2) 大学の将来計画の企画立案等に関する事項
- (3) 授業内容及び教育方法の改善及び質向上に関する事項
- (4) FD・SD活動に関する事項
- (5) 教職員の資質開発・向上を図るための組織的研修に関する事項
- (6) 学内の諸調整等に関する事項
- (7) 学長が必要と認める事項

(組 織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 研究科長
- (5) 学科長
- (6) 専攻・コース長
- (7) 事務局長
- (8) 総務企画課長
- (9) 学長が指名する者

(議 事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見・説明を聴くことができる。

(庶 務)

第7条 委員会に関する庶務は、総務企画課において処理する。書記は、学生支援課長が行う。

附 則

この内規は令和6年12月1日から施行する。

大学等名	鹿児島純心大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理データサイエンスAI教育プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

教育プログラム要件：1年次開講科目（教育・心理学科2単位選択科目）（看護学科1単位選択科目）（健康栄養学科2単位選択科目）

：本教育プログラム指定科目の単位を修得していること。

目的と学修目標：

- ・データサイエンス・AIがもたらす社会の変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶ目的や意義を理解すること。
- ・数理・データサイエンス・AI活用領域の広がり理解し、データおよびAIの活用事例や最新動向について理解すること。
- ・データを適切に読み解く力、適切に説明する力を身に付けること。
- ・データおよびAIを活用する際の倫理と法を理解すること。
- ・データを守るために留意すべき事項を理解すること。

プログラムの実施体制

リテラシーレベル科目の開設：

「数理・データサイエンス・AI概論」

「情報処理」

「基礎情報処理」

「情報処理Ⅰ」

学生の受入体制：

令和5年度に、全学科で履修可能な科目を開設。履修者数を増やすための周知を図り、令和9年度には全学性が履修する必修科目を開設予定。

卒業

社会への活用・応用・還元

授業評価
アンケート実施

企画・FD・SD委員会による申請プログラムの点検・評価

履修状況、授業評価アンケート等から申請プログラムの教育内容について審査項目の点検・評価を行う。

点検評価の
公表

担当者による
プログラムの
改善・向上

申請プログラムの改善・実施

全学カリキュラム・教養教育検討委員会において、申請プログラムの整備を含め、社会の情報化ニーズへの教育の開発、改善を図る。学外や他大学との連携によりプログラムの発展的活用を図る。

大学地域コンソーシアム鹿児島との連携

KMDASH-L協働コンソーシアム

連 携 （教材提供・データ提供）

大学地域コンソーシアム鹿児島において、自治体の様々なデータの解析・活用を行う科目（教育連携コーディネート科目）を令和7年度開設

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム制度」履修率向上の取り組み

教務関係

オリエンテーション 2025

1. 学修時間を確保するための遠隔授業
2. 年間計画
3. 履修登録と単位認定試験
4. 教務情報システム
5. その他(留意事項など)

学生支援

1. 学修時間を確保するための遠隔授業
2. 年間計画
3. 履修登録と単位認定試験
4. 教務情報システム
5. その他(留意事項など)
 - (1)学生便覧未記載事項について
 - (2)卒業要件、資格要件の確認
 - (3)数理・データサイエンス・AI教育プログラム
 - (4)KRICEキャンパス鹿児島(単位互換)
 - (5)大学への安否確認

年度始めのオリエンテーション期間中に、学科学年別の履修指導とは別に、全学の教務関係（履修関連）説明の時間に、特に留意する項目として取り上げ、本プログラムの履修を推奨する機会を設けている。

5. その他（留意事項）

(3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

必修の情報関係科目をベースに、リテラシーレベルの選択科目を履修することで、現在の社会に必要なSociety 5.0の概念および情報化の現状について知見を深めるプログラム

【学科別の該当科目】

学科	科目名	単位数	修了要件
教育・心理	数理・データサイエンス・AI概論	L 2 単位	2 単位履修を必須
看護	情報処理	S 1 単位	1 単位履修を必須
健康栄養	基礎情報処理 情報処理 I	S 1 単位 S 1 単位	2 単位履修を必須

教務関係 オリエンテーション

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム制度」の取り組み

大学地域コンソーシアム鹿児島の教育連携部会に「KMDASH-L協働WG」を組織し、県内の大学（教員）の連携により教材を開発(令和6年度)し、オンデマンドによる各大学でのtableau演習、県内のビッグデータ分析・課題解決に向けたプレゼンテーションを実践する内容の授業を開設(令和7年度)。

現在のプログラム取得率 (収容人数の割合_%)

取得率	令和5年度	令和6年度
教育・心理	2.0	18.2
看護	4.4	7.0
健康栄養	24.3	17.1
大学全体	10.5	14.0

KRICEキャンパス鹿児島

授業交流(単位互換)
コーディネート科

令和7年度

受講生募集!!

鹿児島大学会場
鹿児島国際大学会場
志学館大学会場
鹿児島県立短期大学会場
第一工科大学会場 等

授業科目	開設大学
1. 鹿児島データサイエンス実践	鹿児島大学
2. えっこれだけ？ 頑張らない健康運動のススメ	鹿児島体育大学
3. 異文化コミュニケーション論	鹿児島国際大学
4. 発達心理学	鹿児島国際大学
5. 「ことば・文化・こころ・教育」	鹿児島純心大学
6. 法学特殊講義Ⅱ	志学館大学
7. 人間と文化	鹿児島県立短期大学
8. 人間、動物、環境の健康： One Health の基礎	第一工科大学

鹿児島大学

科目名 鹿児島データサイエンス実践

授業概要 本授業は、データ解析を通じて社会課題の解決策を提案し、それを競争形式でプレゼンテーションすることを目指す。そのため、データの選定、解析手法、視覚化技術の理解が不可欠であり、実践的なデータサイエンスのスキルを習得することを目指す。
授業は2つのパートに分かれる。前半は、広く利用されているデータ分析ツール「Tableau」を用いて、データ解析の基礎をオンデマンドで学ぶ。後半は、グループごとに社会課題をテーマに、Tableauを使ってデータ解析を行い、解決策を模索する。最後に、各グループが成果をプレゼンテーションする。
授業は配布資料等による講義と自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。

学習目標

- データの選定、解析手法、視覚化技術を理解し、適切に活用できる。
- データ分析ツールを用いたデータ解析を通じて、社会課題への解決策を提案できる。
- プレゼンテーションで、論理的に成果を発表できる。

授業計画

- データサイエンスとは何かを理解する／オンデマンド授業
- Tableauの導入／オンデマンド授業
- Tableauの基本操作とデータハンドリング／オンデマンド授業
- Tableauによる解析と可視化(棒グラフ・時系列データ)／オンデマンド授業
- Tableauによる解析と可視化(クロス集計と表計算)／オンデマンド授業
- Tableauによる解析と可視化(マップ表現、その他のグラフ)／オンデマンド授業
- Tableauによる解析と可視化(2次元のデータと散布図、回帰分析)／オンデマンド授業
- 課題設定／対面
- 課題に沿ったデータの取得①／対面
- 課題に沿ったデータの取得②／対面
- データを解析・可視化し問題解決方法をさぐる／対面
- プレゼンテーション準備／対面
- プレゼンテーション準備／対面
- プレゼンテーション(コンペティション)／対面
- 振り返りと改善／対面

※ 期末試験は行わない(指定期日までにレポートを提出)

試験・評価方法 課題(提出物): 60点 プレゼンテーション: 40点

担当教員 伊藤 昌和

開講場所 鹿児島大学部元キャンパス(教室が決まり次第、お知らせします。)

開講期間 1～7回 オンデマンド: 令和7年8月1日～令和7年8月17日
8～15回 対面: 令和7年8月18日～令和7年8月21日

開講時間 12:50～16:00

単位数 2単位

成績発表時期 10月上旬

定員 100名

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項

- ◆一般の方の聴講: 不可
- ◆申込先: 所属大学等
- ◆申込期限: 7月18日(金)
- ◆連絡先: 鹿児島大学学生部教務課事務係 電話099-285-7351
- ◆その他: 授業では個人のPCを使用します。またデータ分析アプリTableau(学生は無料)をインストールします。